

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 27年 11月 20日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3472501513		
法人名	社会福祉法人成寿会		
事業所名	グループホーム田口		
所在地	広島県東広島市西条町田口東子2729-1 (電話) 082-425-5757		
自己評価作成日	平成27年10月26日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3472501513-00&amp;ProfCd=34&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3472501513-00&amp;ProfCd=34&amp;VersionCd=022</a>
-------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島県広島市安佐北区口田南4-46-9
訪問調査日	平成27年11月20日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

家庭的な雰囲気の中で、小規模の施設だからこそ出来るサービス内容の充実化に力を入れている。今までの生活を大切に、温もりとやすらぎのある暮らしを提供しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホーム田口は国道に近く田畑に囲まれた住環境の良い場所に位置しています。3階建ての1階がディサービスで2～3階がグループホームになっています。廊下、リビング居室に日差しが差込、明るく自然な温もりを感じます。広い廊下はレクリエーションの場として使用され、利用者は車椅子で動いたり、歩行練習をしたり、年間行事の運動会などが行われています。利用者が毎日安心して穏やかに過ごされるよう、管理者、職員は、利用者主体である事を同じ方向性で何事にも取り組む姿勢をもち、様々な工夫や努力が見られるグループホームです。

グループホーム田口

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	グループホーム田口の理念があります。	田口の理念(家庭的な雰囲気の中でその人らしく安心した生活を送っていただけるよう支援する)を職員は理解し、日々何事にも取り組む姿勢をもちつづけている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	日常的な関わりがあまりないが、地域の行事参加を通じて交流ができるよう努めております。	地域の方との交流はボランティアの皆さんが訪問され、ハーモニカ演奏、南京玉すだれ、マジックなどで利用者は楽しまれている。郷原の盆踊り、秋には東子供会の女子祭りがありホームの玄関に来て利用者と、ふれあいがあり、自転車の整備士の資格のあるボランティアの方が、車椅子の整備点検に来られ、利用者は快適に車椅子を使われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	実施しておりません。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、利用者やサービス内容の報告等行い、今後のサービス内容について説明をしております。又、出席者(ご家族様・民生委員様・地域包括様)に意見・助言を頂きサービス向上に活かしております。	運営推進会議は2ヶ月に1回、家族、民生委員、地域包括センターの職員、ホームの管理者の出席で開かれ、ホームの状況、事故報告、健康管理、サービスの内容を説明している。出席者からは地域交流のすすめ方などの助言を聞きサービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	包括センターとは会議を通じて交流しておりますが、市との協力関係は書類提出の助言だけとなっております。	介護保険制度の改正など法律が変わった時など分からない事は市役所に連絡し情報を得ている。地域包括センターとの連携はしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員研修会を通じて身体拘束を行わないサービスに努め、カンファレンス行い拘束をしない方法を検討している。	研修で身体拘束について理解しており、身体拘束のないケアを徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員研修会を通じて虐待防止に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	必要時に支援しておます。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約・解約時には、必ずご家族様の不安や疑問点を伺い、理解・納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族の面会時や電話連絡する際に、意見・要望を伺うようにしており、面会時にはアンケートをお願いしています。利用者に関しては、日頃から職員が話をする機会を作るようにしております。	家族の面会時には意見や要望を聞き、遠方の方には電話で連絡し、日頃、家族から情報を聞き、話しやすい環境づくりをしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	役職員との会議の場で職員アンケート等含め検討しております。	ミーティングや申し送りの際、日々思っている気づき、提案を話し合い(例えば車椅子の方を椅子に座ってもらう)個別に困った時(利用者の対応)には管理者に相談している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	実際の現場に訪問し、勤務状況を把握、話を聞く機会を作っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員個々の状況を把握し、必要な研修を受講できるよう努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人内での交流の機会はあります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人の生活歴や家族状況等を、利用者本人や家族に聞く等して記録し職員が把握できるようにしております。また、関わる時間を多く作るよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	見学・契約時等に入居されるまでの利用者本人・家族の状況を伺い、家族の思いを共感できるよう努めている。また、要望・不安な事・疑問点をご家族の方から話が出るような雰囲気作りにも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人の現状を把握し、必要なサービスは何か、見極めるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	出来る能力を維持していけるよう、役割を持って頂く。介助がいる方でも職員と一緒に、できる事が無い工夫するように努めております。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	情報を共有し、家族と本人との関係を理解する事で、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないうよう、支援に努めている。	ご家族様にご協力を頂いたり、会話の中で馴染みの人や場所について話をしたり工夫しています。	入居前に利用者の生活歴を把握することで、思い出の場所や交友関係など途切れないようにしている。面会には家族、近所の人など馴染みの方が来られている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者個々の性格を把握し、必要時には職員が間に入る等して、利用者同士が交流を図れるように努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	相談があれば、支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の中で、個々の思いや希望を聞き出せるよう会話対応を持ち、意向の確認をとるよう努めている。	日常生活の中で利用者一人ひとりの思いをくみ取るよう会話を通して受け止め、意向の伝達ができない方には何らかの選択をしてもらえるよう意志表示を受け止め、向き合った関係づくりに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族や今までに関わりのあった方に、話を聞く等しております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	利用者本人の日々の言動や変化を見逃さないように努めております。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人に関わりのある方々の意見を多く取り入れ、現状にあった介護計画を作成しております。	介護計画は利用者、家族、職員、ケアマネジャーで話し合い、意見を聞き、月に1回のモニタリング(担当者)3ヶ月に1回の見直し、変化のない方は6ヶ月に1回の見直し利用者の生活に必要な介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子を細かく記録し、その記録を参考にしながら、職員間連携し介護計画の見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	その時の状況に応じて、柔軟な支援が出来るよう努めております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	本人の残存機能を維持していけるよう、支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時にホームのかかりつけ医の説明を行い、本人・家族の意思に添って対応しております。殆どの方がホームのかかりつけ医に月に二回の往診を受けています。	馴染みのかかりつけ医を希望される方は受診することはできる。月2回ホームのかかりつけ医の往診があり、24時間連絡、指示ができる安心な医療体制になっている。歯科医はホームと隣接しており何時でも受診できる。皮膚科など専門医の受診もできるよう支援している。	

グループホーム田口

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	利用者の状態で気付き等あれば、看護師に細かく報告し、指示を頂くようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の状況等を把握する為、医療機関との情報交換・本人面会し連携をとっています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	利用者の日々の状態をご家族様に細かく伝えながら、今後起こりえる状況も予測して早い段階から話をしよう心がけている。	利用者が終末期に近づいた場合、家族に意向を確認し、連絡を常にとる。状況変化があった場合、医師、家族、看護師、職員で話し合い利用者にとって何が幸せか支援に取り組む。今年一人の看取りがあり、家族の意向は最後までとの気持ち、家族の思いに添えたいと職員の思いで支援された。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	内部研修を通じて緊急時の対応方法は確認をとっております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練を年2回以上行っています。運営推進会議等で地域の方にも協力していただけるよう話をしている。	年2回の避難訓練(夜間想定も)を行い、避難場所、避難経路、機器、消火器などの確認、使用方法を身に付け、全員で実践訓練を行っている。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	言葉かけや対応については、日頃から職員間で注意し、個々が意識を持って行うよう努めている。	利用者のプライバシーを損なわない声掛け、接遇に配慮し、敬う心を持って接する事に努めている	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者とのコミュニケーションを大切にし、可能な限り本人の意思を尊重し対応しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	今までの生活環境や、生活リズムが異なる為、その事を理解し、利用者本位の生活の流れを大切に対応しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の意向にそえるよう、必要な物があればご家族に相談する等しております。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	管理栄養士と連携をし、利用者の好みも反映できるよう努めております。又、簡単な作業や味見をして頂き意見を聞く等しております。	食材業者の管理栄養士による献立で、旬の食材で、行事食や利用者の好みが作られ、一人ひとりの状態に合わせた食事形態(ミキサー食、刻み食)で提供している。食事準備を手伝ってもらえる方は一緒に、食事を楽しんでもらえるよう支援している。外食(ランチ、ジェラート)に出かけ、メニューを見て選んで楽しめるよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	医師との確認をとりながら個々の食事・水分摂取量がわかるように記録をしています。その日の体調に応じた食事形態も行っております。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	利用者個々にあった口腔ケアを毎食後行っております。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	可能な限り、トイレでの排泄を促しています。必要時には医師に相談しております。	自然に、できるだけトイレでの排泄が、気持ち良くできるよう一人ひとりの習慣を把握し、様子や、仕草を見ながら声掛けして対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	医師・管理栄養士と連携をとり個々に応じた予防に取り組んでおります。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	可能な限り、本人の希望に添えるよう努めております。	入浴は利用者の希望を優先し、1週間に2~3回は入られている。拒否される方には気分良い時に、夜希望される方、リフト使用の方、シャワー、清拭、状況により、利用者に合わせて、柔軟な対応をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	生活環境や体調を把握し、その時の状況に応じて休息できるよう環境を整えております。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	内服薬の効能や副作用等は処方箋を確認したり、指示を頂きながら症状の変化の確認を細目に観察しています。			

グループホーム田口

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	本人の意向を重視し、習慣や趣味等を行って頂くため必要な物品を準備したり、作品等を飾るなどして本人の意欲を引き出すよう努めております。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	本人の意向を確認しながら、支援に努めております。又、四季折々の行事計画を立て可能な限り外出する機会を設けております。	利用者の体調や希望を聞き、気候の良い日には回りの田んぼ道を散歩している。年間行事(黒瀬神社、西農の桜、かんぼの宿、首戸大橋、郷原の夏祭り、県民の森、市民ギャラリー)の食事やドライブに出かけ外気を受け、四季を感じて、楽しめる支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	希望があれば、お金を所持していただいております。行事計画等で使えるように支援しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があれば、電話をかけたリ、手紙のやり方が支援できるようにしております。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者が安心して、ゆったりと過ごして頂けるよう環境面には配慮しており、季節の物を一緒に手作りしたり飾ったりしております。	リビング、居室、広い廊下からの眺めは、緑豊かな田畑の四季が感じられる。壁には利用者の作品の習字や、行事や日々の利用者の笑顔の写真、玄関には手作りの小物が置かれ、温かみを感じる工夫がしてある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居室が全て、一人になれる空間があり、リハビリにはソファが設置してある為、気のあった利用者同士でくつろぐこともできる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	今までの生活空間に近づけることで安心感を与えることができるため、今まで使用していた生活用品等は、家族や本人と相談しながら、持ち込んで頂いている。	自宅で使われていた馴染みの家具、趣味の作品(パッチワーク、手芸、習字)が持ち込まれ、利用者の希望に添えるよう配慮した居心地良い環境づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	少しでも残存機能を維持していけるよう、トイレや浴室には手すりがついており、すれ違う時に接触しないように廊下のスペースが広がっている。		



V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

グループホーム田口

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム田口

作成日 平成 27年 11月 21日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	避難訓練を定期的に行っているが、消防署との合同訓練があまり出来ていない。	災害時の避難方法の習得	定期的に消防署と合同で訓練を行っていく。	1年
2	2	日常的な地域との交流が殆どない。	地域との交流を深める。	民生委員に相談する。	未定
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。